

早めの避難が命を守る

近年、全国各地で大型台風や集中豪雨による甚大な被害が相次ぎ、避難の遅れなどが原因で多くの死傷者が出ています。身の危険を感じた時にすぐに逃げの備えはできていますか。早めの避難の重要性を今一度見直します。

昨年7月1日の大雨で水位が上昇した熊本川



雨の強さと降り方(気象庁ホームページより)

1時間雨量	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10mm以上 ~ 20mm未満	やや強い雨	ザーザーと降る	跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声や音が聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20mm以上 ~ 30mm未満	強い雨	どしゃ降り	傘を差してもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気が付く		ワイパーを速くしても見づらい
30mm以上 ~ 50mm未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る			道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる
50mm以上 ~ 80mm未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80mm以上~	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる				

西日本の広い範囲に大きな被害をもたらした「平成30年7月豪雨」に見られるように、近年、短い間に非常に激しい雨が降る回数が増加しています。気象庁のデータでは、1時間あたりの降水量が50mm以上の非常に激しい雨が発生する回数は、ここ30年で約1.4倍に増えていきます。狭い地域に短時間で集中した雨が降ると、川の水位が一気に上昇し、河川の堤防が決壊して一挙に川が氾濫します。河川の整備が進んでいる地域でも想定を超える被害が起こっており、市でも昨年、大雨を原因とする床上・床下浸水の被害が発生しました。

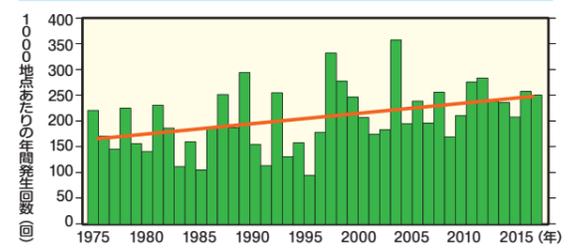
「これくらいで避難するのかと周りの目を気にしたり、自分は大丈夫、ここは今まで災害が起きていないから大丈夫と思ったりしがちですが、早めに避難することが大切です。ハザードマップで自宅や周辺地域の危険なところを今一度見直してほしい」と話す防災士の坂本理恵さん。坂本さんは輪島市で暮らしている時に能登半島地震で自宅が倒壊。掘りごたつの下に身をうずめて一命を取り留めた経験から災害への備えに関心を抱き、

るときに災害が起きたら、とっさに考えて行動し、自分の命を守ることができると思います。怖い、危険と萎縮させるのではなく、何が危険で何が安全かを遊びを通して、一緒に楽しく考えることが大切です」と話します。

坂本さんの自宅は土砂災害警戒区域のすぐ近くで、大雨の予報が出た時は不安になり、どう避難するか家族で話し合ったそうです。「指定避難所も被災する可能性があります、避難する道中が冠水している場合もあります。安全な場所に頼れる人がいるか、子どもの通学路に子ども110番の家があるかなど、指定避難所以外に避難する所があるかを知っておくべきです」と話す坂本さん。「足の不自由な高齢者や赤ちゃんがいたり、自宅のそばに川やため池があったり家庭によって状況は異なるので、いざという時どこへどのように避難するのかを家族で話し合う機会を必ず持つてほしい。助けを必要とする人が近所にいないか、地域間で把握することも減災につながります」と住民同士が助け合える関係を日頃から築くことも大事だと力を込めました。

雨の降り方が変わっています

全国(アメダス)の1時間降水量50mm以上の年間発生回数



最近10年間(2008~2017年)の平均年間発生回数(約238回)は、統計期間の最初の10年間(1976~1985年)の平均年間発生回数(約174回)と比べて約1.4倍に増加しています。(気象庁ホームページより)

10年前に市内へ移住した際、防災士の資格を取得しました。旧徳田小学校では、土砂災害を想定した図上訓練を行う防災教室を6年生に開き、現在絵本の読み聞かせに訪れるあさひ保育園では、防災に関する紙芝居や歌、詩などを交えて、災害や日常の危険から身を守る方法を子どもたちに伝えていきます。「防災教室の前に、1人いるときに災害が起こったらどうしますかと児童にアンケートをすると、56%の子が親が来るまで待つと回答しました。想像してみてください。もし、大切な家族が1人だけ



紙芝居で雨雲が来た時にどう身を守るかを伝える坂本さん。資料は金沢地方気象台や市の防災対策室から取り寄せ、気象台のホームページからも引用します。

防災士・災害ボランティアコーディネーター

坂本 理恵さん

輪島市で能登半島地震被災後、七尾市に移住。移住後も、輪島市の仮設住宅の入居者を喜ばせたいとイベントをする子どもたちをサポートし、東日本大震災後は子どもたちと仙台市への訪問や支援活動も行った。2年前にかほ市に転出し、現在も市内での防災教育活動や訓練は継続。防災を楽しく伝え、家族や地域全体で子どもの生きる力を育てていくことを信念としている。

